

最新の乳がん検診車「出前」 宮若 施設入所者ら無料受診



検診車の前で乳がん検診の必要性を訴える高木院長（左）と辻社長

乳がんの早期発見、治療の大切さを訴える「ピンクリボン月間」（10月）にちなみ、乳がん検診車「mom」による無料検診が6日、宮若市乙野の障害者支援施設「若宮園」で行われ、入所者ら計41人が受診した。

検診車は、福岡市の「高木ひろみ乳腺レディースクリニック」（高木博美院長）が、飯塚市のマスク製造会社「クロシード」（辻政和社長）の協力で運行し、最新のデジタル・マンモグラフィ（乳房エックス線撮影装置）とエコー（超音波検査）の装置を搭載している。同クリニックなどは2011年からピンクリボン運動を応援する乳がん検診事業「momプロジェクト」を開始。企業やイベント会場などに出向いて、早期発見の重要性などを呼びかけているが、プロジェクトを

進めるうち、障害者が検診を受ける機会が少ないことに気付いた。そこで、今年3月から、年間1000人を目標に、障害者福祉施設での無料検診を開始。今回は、桂川町の施設に続いて2回目の実施となった。

この日受診したのは20、60歳代の入所者31人と職員10人。高木院長は「検診を通して、ほかの施設へも乳がんに対する関心が高まってほしい」と話した。施設側も「病院などへ行かなくてもよく、日常生活に近い状況で受診できるので助かります」と好評だった。